

CHESS Magazine♔

#15

August 2024
japanchess.org

Interview

IM 南條遼介さん

チェスオリンピック2024
日本代表選手紹介

ジャパンチェス
クラシック2024

[優勝者自戦記] 青嶋未来

21st Bangkok Chess Club
Open 2024遠征記／長瀧航太
FIDE100チェストーナメント 他

全日本ラピッドチェス 選手権2024

[優勝者自戦記] 古谷昌洋



Japan
Chess
Federation

CHESS Magazine #15 August 2024

Tournament Report

03 全日本ラピッドチェス選手権 2024

[優勝者自戦記] 古谷昌洋

14 ジャパンチェスクラシック 2024

[オープン優勝者自戦記] 青嶋未来

31 FIDE 100 チェストーナメント 原島もも

Interview

08 IM 南條遼介さん (前編)

12 チェスオリンピック2024 日本代表選手紹介

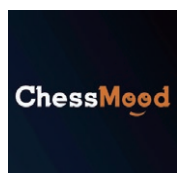
海外遠征記

20 21st Bangkok Chess Club Open 2024遠征記 長瀧航太

24 FIDE World Junior Chess Championship 2024 Ami Matsumura

28 Asian Youth Chess Championships 2024 遠藤美紀

32 チェス大会inアメリカ NO.77 上杉賀子





**Tournament
Report**
大会レポート

**特集：
全日本ラピッドチェス選手権
2024**



6月29日(土)と30日(日)、きゅりあん（品川区総合区民会館）を会場に、全日本ラピッドチェス選手権2024が開催されました。9Rスイス式で持ち時間15分+10秒/手のFIDE／国内ラピッド公式戦です。参加者は、なんと、103名！本大会の昨年の新記録63名を大幅に更新し、ついに3桁に乗りました。日本のチェス界の盛り上がりを変えて実感します。2日間の熱い戦いの様子をレポートします（氏名は敬称略）。

大会初日はレーティング差の大きい組み合わせなので、おおむね上位者が順当に勝つかと思い

きや、早くも第3Rで田中智1-0南條遼介、優勝候補に土がつく驚きの展開となりました。そして2日目、第5Rの1番ボードでTran Thanh Tu 1/2-1/2 松村心、期待の若手がリストトップと引き分け、大会はますますヒートアップします。彼ら2人と古谷昌洋、森谷翔、長瀧航太、Nguyen Tuan Anhの計6人が4.5ポイント(p)の同星で首位に並び、半星差の4pで米満康平ら8人が追いかける大混戦となりました。

午前11時開始の第6Rのハイライトは1番ボードで、古谷1-0Tu、レーティングで394点差

をひっくり返す勝利には目を見張らされましたが、しかしこれはドラマの始まりにすぎませんでした。次の第7Rで南條0-1古谷、第8Rで古谷1-0松村、レーティング2000超の選手を次々となぎ倒した古谷が首位を独走します。そして最終第9Rを手堅くドローでまとめた古谷が余裕で優勝を果たすのでした。

古谷は全日本ラピッドチェス選手権2023で7.5/9pの2位でした。昨年は準優勝、そして今年、全日本ラピッドチェスチャンピオン2024の称号に輝きました。おめでとうございます！

全日本ラピッドチェス選手権2024

◆オープン

1位 古谷 昌洋	8.0/9p
2位 松村 心	7.5
3位 CM Tran Thanh Tu	7.5
4位 IM 南條 遼介	7.0
5位 田中 智	7.0
6位 米満 康平	7.0
7位 長瀧 航太	6.5
8位 CM Averbukh Alex	6.5
9位 AIM Kim Changhyung	6.5
10位 FM 山田 弘平	6.5

◆U1700

1位 大沼 航太	6.0
2位 Huang Hsuan-Chen	5.5
3位 佐々木 權志	5.5



オープン入賞者



優勝者自戦記
古谷昌洋

こんにちは、古谷です。6月に行われた全日本ラピッドチェス選手権で優勝することができました。初めてのことで、とてもうれしく思っています！今回はこの場をお借りして、8Rの松村さんとの試合を紹介します。この試合が始まった時点では互いに6.5ポイントの同率首位で、勝った方が優勝に大きく近づく状況でした。すでにラピッドとはいえ2日で7試合を指しており、体力勝負の側面もあります。毎年思いますが、この大会はけっこう疲れます。

Matsumura, Cocoro

Furuya, Masahiro

Japan Rapid Chess Championship
2024(8)

1.e4 e5 2.Nf3 Nc6 3.Bb5 a6
4.Ba4 Nf6 5.O-O Be7 6.Re1 b5
7.Bb3 O-O 8.h3 d6 9.c3 Na5
10.Bc2 c5 11.d4 Nc6?! 12.d5!
Nb8 13.Nbd2 Nbd7 14.b3 Re8
15.Nf1 Bf8

黒の序盤に不正確な点があり、このあたりは白のペースになっていますが、ひとまずじっと耐えることにしました。

16.Bd3 Nb6 17.c4 Bd7 18.Bd2
Rb8 19.Ng3 g6 20.Qe2 Bg7
21.Nh2 Qc8

白のNg4を避けるための手ですが、ここまでして防ぐ必要があるかは疑問です。これを見て白から局面を動かしてきます。

22.cxb5 axb5 23.Bxb5 Bxb5
24.Qxb5 Nbxdb5 25.Qd3



21...Qc8の時点で本譜の展開は読んでいたのですが、このQd3からd6を狙うアイディアを見落としていました。指された瞬間はポーンダウンになるかと思いましたが、幸運にもこの先に対応策が残っていました。

25...Nf4 26.Qf3 d5

26.Qxd6は26..Rd8かRe6のいずれかで黒が駒得です。26.Bxf4 exf4も、g3のナイトに当てなが



ら a1 のルークを狙う手筋が発生するのでできません。そのため、意図したものではありませんが、黒は主導権を維持できて優勢になりました。

27.Bxf4 exf4 28.Qxf4 Nxe4 29.Rac1 Be5 30.Qf3 Nxg3 31.fxg3 Bd4+ 32.Kh1 Qa6?! 33.Rf1 Re7 34.Qxd5 Qxa2

a2 は強力なパスポーンに成りうるので取りに行きましたが、さすがに d5 の黒ポーンのほうが価値が高そうなので交換するべきではなかった気がします。

35.Rce1 Qa7 36.Ng4 Rxe1 37.Rxe1 Qc7 38.Qg5 Rf8 39.h4 h5!?



時間を大きく使いながらも、この辺りは冷静に受けることができました。この h5 が実現したことにより、白はナイトの位置を選択する必要があります。

40.Nh6+ Kh7 41.Re7 Qa5!

次に 42...Qa1+ 43.Kh2 Qg1+ 44.Kh3 Qh1# のチェックメイトを狙っているのですが、白はバックランクを受けざるを得ません。ここで主導権を取り返せたため、黒の

チャンスとなりました。

42.Qc1 Kg7 43.Kh2 Qa1 44.Nf5+! gxf5 45.Qg5+ Kh8 46.Qxh5+ Kg8 47.Qg5+ Bg7 48.Qxf5 Qd4

黒はピースアップしましたが、キング前を徹底的に荒らされました。優勢ですが勝ちはまだ遠いです。

49.Re4 Qd6 50.Rg4 Re8 51.Qg5 Qe5 52.Qh6 Re6 53.Qg5 Qxg5 54.Rxg5 Re5 55.Rg4 Kf8 56.b4 cxb4 57.Rxb4 Re3 58.Rg4 Be5

ここは 58.Rb8+! Ke7 59.Rb7+ Ke6 60.Rb6+ Kf5 61.Rb7 Kg6 62.h5+! などのアイディアがあったようで、黒としてもどの形に進めば勝てるのか、判断が難しそうです。本譜は白キングにすばやく圧力をかけることができたため、黒勝ちのポジションになりました。

59.Kh3 f5 60.Rg5 f4 61.Rxe5 Rxe5 62.gxf4 Re3+ 63.Kg4 Kg7

64.Kf5 Rg3 0-1

これで 2 位に 1 ポイント差をつけた首位になったため、次の試合をなんとかドローにして優勝を決めることができました。大会中盤以降の格上との連戦があまりにも厳しく、2 日目はずっと綱渡りしているような感覚でした。毎大会のように優勝争いをしているプレーヤーのすごさがようやくわかった気がします。

大会を通じて判断ミスはたくさんありましたが、試合を壊してしまうようなブレンダーはさほどなく、得意の早指しで大きな結果が出て嬉しかったですし自信にもなりました。優勝を意識して指した大会終盤の何試合かは特に緊張もすごかったのですが、面白い体験でした。これからはもしびれる場面でチェスができるように頑張りたいと思います。

大会の運営に携わった方、対戦してくださった皆さま本当にありがとうございました！



普段の練習を 本番と同じ駒、同じ盤で





モダン・スタントン 96mm ヘビー



プラスチック製
駒のみ

¥3,980



Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 



オフィシャル・スタントン 95mm



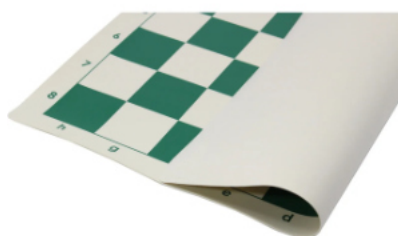
木製
駒のみ

¥12,800





Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

トーナメント 51cm 57mm



ビニール製
盤のみ

¥2,680



Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

モダン・トーナメント 44cm ヘビー



プラスチック製
盤と駒のセット

¥4,980

Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

他にもたくさんのチェス用品を取り揃えております
チェス用品のご購入は



CHESS JAPAN
GAME AND ART

Yahoo!ショップ：<https://store.shopping.yahoo.co.jp/chessjapan/>

公式HP：<https://www.chessjapan.com/>

※価格は掲載時点のものです。

Interview

インタビュー 前編

南條 遼介さん

自分のベストゲーム集が 常に更新されるくらい 良い試合を指したい

なんじょう・りょうすけ

1988年生まれ、ニューヨーク出身。アメリカでの幼少時代にチェスを始める。2001年に入学した麻布学園のチェスサークルで瞬く間に力をつけ、2002年にはチェスオリンピックに出場。ジャパンチェスクラシック2019優勝、ジャパンリーグ（現クラシック）優勝4回、ジャパンオープン優勝10回、そして昨年に引き続き今年の全日本選手権で優勝し（通算5回目）、日本チェス界史上なんと18年ぶりとなるタイトル防衛・連覇を達成した。



今年の全日本選手権で優勝し、昨年獲得した全日本チャンピオンのタイトルを見事防衛した南條遼介さん。昨年は惜しくも全日本チャンピオンの声をマガジンに掲載することは叶わなかった。その分、今回のインタビューでは全日本選手権に関連するエピソードの他、南條さんの永年の「敵」、チェスへの想い、南條さんのチェスの上達の歴史から南條さんを倒す秘訣まで、前後編に渡ってお届けしたい。

全日本選手権優勝、連覇という快挙、おめでとうございます

ありがとうございます。そうですね、全日本はやはり日本の大会の中では一番レベルが高い大会ですし、ここ最近はそのレベルがさ

らに高くなってきています。なので、優勝できることだけでもすごいことだと思っています。

あの、いきなり話が変わるんですが、去年は色々とタイミングを逃して記事を出せずに申し訳なかったと思っています。

（あ、いえ、そんな...）

私はSNSなどで発信するのは得意ではないですし、Xのアカウントも作った方がいいものの更新できずでいますし（苦笑）。苦手ですが、ブッチするのはどうかなと思って。しかも2年連続となると...

ではその分がっつりお話伺いさせていただきます（笑）

情報発信をしないといけない立

場として、やっぱりちゃんとしていけないといけないと思うようになって。これまでは今ほどの情報の需要もなかったですし、尚且つチェス連盟の運営の規模としても、昔は受け入れ先がないといえますか。だから、そこまでやってもなという気持ちが正直あったのですが。

今も全ての需要に対応されるのはやっぱりまだ苦勞されていると思うのですが、それだけの努力をされていて。

今、こうやって日本のチェス界が一丸となってとにかく盛り上げていこうという機運が高まっていて、受け入れ先もできてきて、努力も成果も大きくみられる中、自分がどれだけ手助けできるかはわ



からないけど、足を引っ張るのは論外だなと。で、そうすると1年日本チャンピオンが欠席するならともかく、2年穴が開いてしまうのはちょっと盛り上がり欠けるなっていうのはありました。

ご協力いただき、ありがとうございます（ほんとに）

あまり得意ではないんですけど、ちょっと...でもそこら辺、頑張っていこうかなと。Xなんかはアカウント作るだけでも一苦労といえますか、手助けがないとちょっと自分ではできないから助けてって感じでした。本当に全日本選手権の前にやらなくて良かったなと思いましたね。多分逆に、これに手間取ってたら全日本選手権はともじゃないけど優勝できなかったなっていうのを実感しましたね。

気になってしまうとかですか？

いや、単純にあまり得意ではないことをやるのにすごいリソースを割かれるって感じですかね。あまりSNSを強要しないようにします。でもやった方がいいなっていうのはちょっと思ってるので、

そこら辺は折り合いをつけてなんとかしようかなと思います。

（チェスの話出てこない...）

あと、去年も今年もなんですけど、今までと違うことでチェス以外でやったこととしては体調の管理ですね。こう言うところ歳をとった感じがありますけど。体調管理に関しては、体調自体は今までよりは良くないのかもしれないんですけど、それをベストのコンディションに持っていこうという努力はここ2年が一番大きかったかなと。

若い時は若さでゴリ押しみたいなのをしがちになるんですけど、それよりは、今は体力的には劣っていても、なるべく今の自分の最善に近づけるようにって感じで。

特に私の場合だと重度の花粉症なので、花粉症対策については免疫療法をここ2年やっているというのは大きいかなと。

花粉症は改善されましたか？

そうですね、一応3年はやるようにと医師から言われているんですけど、半年くらいから結構効果が出たといいますか。私の場合はそ

れだけ酷かったということで、改善がみられました。まだまだ続けないといけないんですけど。

そういう意味では、全日本選手権はどうしても5月にあるので、特に若いプレーヤーやこういった花粉の季節に大きな大会があるような、そういう趣味を持っている人は特にお勧めしますね。

あとはチェスもスポーツというか、海外のトップGMとかもジム行ったり、体を鍛えたりしている人が多くて。私はそういったことはしていませんが、体のコンディションを気にかけているトッププレーヤーはすごく多いなと特に今感じますね。

なので、大会も単純にチェスについてだけじゃなくて、体調やチェス以外の要素といった、最善のパフォーマンスを発揮するために必要だと考えられることにちょっと目を向けるのをお勧めしたいですね。私は特にここ2年はその努力が一番大きいかと思ってます。

昨年2023年はちょうど10年ぶりの優勝でしたが、その間は？

そうですね、2023年の前はまず海外にいて3年くらい全日本選手権に出ていなくて、それより前は不参加の年もありましたし、純粹に実力が足りずといった感じの年もあったり色々バラバラなんですけど、実は関東の合計の花粉の散布量が、毎年グラフを取ってみますとここ20年で一番少ない3年が2010年、2012年、2014年なんです。



花粉に左右されっぱなしですね (ごめんなさい)

はい、あの、いやでも本当にあとからみると、昔は多分自分がリスト1で、レーティングが他の人より100以上高いような年でもなんか優勝できなくて...という感じだったんですよね。そのときはまだ一回も全日本選手権を優勝したことはなくて、本番に弱いねというか、大事なところで弱いねと言われてたりして、そこを鍛えてたんですよ。

でもあとから見てみるとちょっと...結構ショックというか(笑)。本番に弱いとか重要なところでパフォーマンスを発揮するためにやってた努力は何だったんだ!って、思わなくはないんですけど。

...まあ、そう思わなくはないんですが、そうやって鍛えた結果タイブレークはほとんど負けなくなったので、そういう意味ではその努力のおかげで大事なところで負けない、無駄に勝負強くなったとも言えるんですけど。そういった結果は一応出ているのかなとは思いますが。

実際、当時全日本選手権以外の大事なところで結果が出せないこともあったのですか？

いや、ないですよ。だから本当に、全日本選手権以外は全部全勝みたいな感じでやってるのに、全日本だけ優勝と1ポイント差をつけて3位とか5位とかそんな感じで。

やっぱりもっと早く知りたかったなというのもありますけど、まだまだできることもありますし、今からでも努力はできるので。

ベストゲームには中原さんとのゲームを紹介していただきましたが(マガジン14号掲載)、このゲームを選んだ理由は？

はい、これは並べてみればたぶん一発でわかると思いますが、この全日本選手権で一番いい試合というか、もしトーナメントでベストゲーム賞があったらこれだっという説得力があると思います。

ひとつは、なんというか、まあ結果的にはですが、駒を捨てて全く取り返さずにすごく長期的な攻めを実現したというか。ポジショナルサクリファイスというには攻撃的な色がちょっと強すぎなんですけれど。攻撃の感覚、形勢判断、読み...。攻撃に関してもただ単純にまっすぐな読みだけでなく、総合的な判断、戦略ですかね。そういった色々な要素が入った複雑なものが、結果的に攻撃になっていった。それを相手にはもちろん、自分にも限界を要求するような指し方で勝ったっていうのが、ひと言で言えば、そう(ベス

トゲームに)なるんですかね。

あと中原君もすごく一貫した指し方をしていて。こちらが少しでもブレたらひっくり返そうといった感じで。自分の手に一貫性を持った指し方をしていたので、当然自分の指し手の正確性が結構限界まで要求されて、それに答えることができて勝利できたっていうのが一番の要因ですかね。

この全日本の9試合をオリンピックのコーチのMihajlo Stojanovicさん(通称ミーシャ)に見せたんですけど、ミーシャも全体を通してそこまでびっくり(!!)とか付けたりしてなかったんですけど、一目見て「これはいい試合だ!」って絶賛でした。

たぶん中原君自身は若すぎてたぶんわかんないと思うんですけど、試合を見ていて、往年の、全盛期のカスパロフをイメージさせるような感じになったのかなという。もちろんカスパロフであつたらもっと綺麗に決めるかもしれないとは思いますが、カスパロフの棋風っていうのが感じ取れるような試合にできたのかなと。

カスパロフ自身も結構実戦的ではないレベルまでに自分に限界を当然のように要求していた選手だったので、そういった意味では自分に限界を要求するっていうことは、それを達成できた時はそれだけいい試合になるというか。やっぱりただ単純に勝ったというだけじゃなくて、チェスの歴史に何か残

せたんじゃないかなといった感じの試合ができるんじゃないかなって思います。そう言うと大げさな感じがしますが、この試合を指した感じだと、全日本選手権という全てがかかったような、国内の中だと全部の集大成といった大会であると、これだけレベルの高い試合が指せるんだ、と。そんな中で特にこれがベストだと思います。

現在だったら、ここまで自分の限界を要求するような、ああいった指し回しは逆にあまりしないんですよ、たぶん。やっぱりカスパロフが一番強かった時代だからこそ、みんなそんな感じで指していたっていうのもあったので。アナンドもそこまででもないですし、カールセンが今一番強いとなると、カールセンはとにかく実戦的なところに重きを置くので、カスパロフほど一局一局自分の限界を求めるみたいなことはあんまりしないんですよ。もちろん、要所所で必要があればするんですけど。

そういった感じの、非実戦的に感じるぐらいのレベルまで自分に無理を要求する、自分にレベルの高い指し手を要求するっていうことは、今だとあまりしないんですよ。

チェス界全体のスタイルの違い？

チェス界全体のスタイルっていうのもありますし、そのスタイルを作っているっていうのはやっぱりトップ層かなと。そういったスタイルですかね。当然カルポフが



世界チャンピオンだった時代はみんなカルポフのように指してグランドマスターになるか、あるいはカルポフのように指さなくてグランドマスターになれないかっていう。

それこそ、カルポフの時代はタリがカルポフのように指す時代だったので、それがチェスの答えだったんですよね。今はカールセン、まだカールセンといった感じなのかな。カールセンのスタイルをやっぱり若いプレイヤーは模倣しますし。

なので、今はと言うと、そういった実戦的なチャンスを最大限に利用する。ただし、コンピューターの正確性は重要。コンピューターと共存する時代で正確性は重要なんですけど、実戦的なチャンスやイコールでも実戦的に難しいもの、そこに相手を追いやるという展開を好みますかね。

南條さんご自身もですか？

はい、私もですね、結構やります。ただ、こんな感じでチェス歴が長いので（笑）、その分色々引き出しがあるといった感じですかね。

無茶をすることはありますか？

無茶はいっぱいします。いっぱい

いしますし、そのせいでいっぱい負けます。

無茶をするのはなぜ？

すごい良い一局というのを作りたいって。例えば、自分のベストゲーム集みたいなのがあったとして、それを何でこのタイミングで作っちゃったんだって感じるような試合を次の試合で指したいんですよ。それぐらい良い試合を指したい。「なんでこの試合が漏れてるんだ！」みたいな試合を指したいっていうのは常に思っていることなので。

常に試合を追加できるゲーム集を作りましょう（笑）

ははは、まあオンラインだとそんなこともできるんでしょうけど。そんな感じで、自分のベストゲーム集があれば、それが常に更新されないといけないくらい良い試合を指したいって、大会に行っていると思います。もちろん自分一人でするものではないので、当然相手も強くないといけないですし、色々条件はありますけどね。

次号の後編では南條さんのチェスの取り組みや、今の「彼にしかない」強さを築き上げるまでの上達の歴史を大公開。乞うご期待。

チェスオリンピック2024 日本代表選手紹介

2年に1度の"チェスの祭典"、国際チェス連盟 (FIDE) 主催、国対抗チーム戦であるチェスオリンピック (第45回) が、2024年9月10日から23日までハンガリーのブダペストで開催されます。日本からはオープンセクション5名、女子セクション5名、計10名の選手が参加、世界の強豪国と競う日本代表選手を紹介します。チーム史上最強と言われるメンバーが揃いました!!
日本代表チームへの応援を心よりお願い申し上げます。がんばれ、ニッポン!!

OPEN



NANJO RYOSUKE

IM 南條 遼介

戦績 | 全日本チェス選手権2023・2024優勝 (計5回) / ジャパンチェスクラシック2019優勝・ジャパンリーグ優勝4回 / ジャパンオープン優勝10回

メッセージ | 応援して戴いている皆様の情熱に相应しく在れるように、より良い日本のチェスに繋げられるように、今の自分に取れる最も大きい一歩を刻みたいと思います。



KOJIMA SHINYA

IM 小島 慎也

戦績 | 全日本チェス選手権優勝5回 / ジャパンオープン2022優勝 (計7回) / ジャパンリーグ優勝5回 / アジア競技大会2006・2010・2022日本代表

メッセージ | ブダペストは私がMタイトルを獲得した思い出のある地です。そんなブダペストでのオリンピックを、この数年心待ちにしていました。今年は非常に良いメンバーが揃い、過去最高の戦績も期待できると思っています。自身とチームが良い結果を出せるよう頑張っていきますので、応援をよろしくお願いいたします。



TRAN THANH TU

CM チャン・タン・トゥー

戦績 | 全日本チェス選手権2020優勝 (計3回) / ジャパンチェスクラシック2022優勝 / ジャパンオープン2018優勝 / FIDE World Cup 2023出場

メッセージ | 応援者の皆様から感謝申し上げます。これからも全力で努力して参ります。皆様の支えがあるからこそ、私たち選手一同は自分の限界を超えて挑戦することができます。ご期待に応えられるよう、日々のトレーニングに励んでおります。そして、その全ての努力が、本オリンピックで史上最高の結果を出す形で結実することを願っています。引き続き応援よろしくお願いいたします。



AOSHIMA MIRAI

FM 青嶋 未来

戦績 | 全日本チェス選手権2019・2022優勝 / ジャパンチェスクラシック2023・2024優勝 / ジャパンオープン2023優勝

メッセージ | 今回初出場が叶いとても楽しみです。個人として、そしてチームとして良い結果を出せるよう頑張ります。皆様応援よろしくお願いいたします!



YAMADA KOHEI

FM 山田 弘平

戦績 | 東京チェス選手権2024優勝 / ジャパンオープン2017優勝 2022・2023 2位 / アジア競技大会2010・2022日本代表

メッセージ | 史上最強チームの一角に名を連ねることができ、光栄です。2018年の58位を上回り40位台を目指したいと思います。応援よろしくお願いいたします!

45TH FIDE CHESS OLYMPIAD BUDAPEST 2024



SAKAI AZUMI

WCM 坂井 あづみ

戦績 | 全日本女子チェス選手権2023優勝/全日本女子チェスチャンピオン2019・2024/全日本チェス選手権2023女子1位/千葉チェス選手権2023優勝

メッセージ | オリンピアードは長丁場のハードな大会で、いつも皆さんの声援に助けられています。今年も精一杯頑張りますので、応援どうぞ宜しくお願いします！



SHIBATA MISAKI

柴田 美咲

戦績 | 全日本女子チェス選手権2023 3位/ゴールデンウィークオープン2022 U1600 2位/World University Chess Championship 2014 日本代表

メッセージ | この試合がいままでのベストゲームになるように、という気持ちをもって、その日の一試合に向き合いたいです。チームで一丸となってベストを尽くします！



KINOSHITA KANAKO

木下 奏子

戦績 | ハーグ女子選手権 2023 優勝 / DD Open 2023 女子 1 位

メッセージ | 勝ちを視ること負けの如し - 奏子 -



MITSUYAMA RIKKA

三津山 六花

戦績 | 全日本女子選手権2022優勝・2023 2位・2024 3位/全日本チェス選手権 2024 女子1位

メッセージ | このような大きな大会に出場させていただけることを大変光栄に思います。ひとつひとつの試合を大切に、自分の力をすべて出し切るよう最後まで精一杯頑張ります。



TAKAYASU MELODY

高安 メロディ レディー ガルシア

戦績 | 全日本女子チェス選手権 2005 優勝・2022 2 位/ジャパンオープン 2019 女子 1 位

メッセージ | 48歳で初めてチェスオリンピックに出場するなんて、夢にも思わなかったことです。大好きな日本チームのために全力を尽くします。応援してくださり、本当にありがとうございます。皆さんのサポートが私たちに力を与え、ベストを尽くせるようにしてくれました。「私は立派に戦い抜き、レースを走り抜き、信念を貫き通しました！」

WOMEN

コーチ



GM Stojanovic, Mihajlo
(セルビア)



GM Petrov, Marian
(ブルガリア)

選手団長



真鍋 浩



Tournament Report

大会レポート

ジャパンチェスクラシック2024



日本チェス連盟
Japan Chess Federation

ジャパンチェス クラシック2024

神田大吾

今年のジャパンチェスクラシック2024はきゅりあん（品川区総合区民会館）を会場にして、2つの大会が並行開催されました。7月13日(土)～16日(火)の4日間で行われる「オープンコース」と、13日(土)～15日(月・祝)の3日間の「チャレンジャーコース」（U1800）です。前者は持ち時間が90分+30秒/手の7Rスイス式、後者は45分+30秒/手の8Rスイス式で、どちらもFIDE/国内スタンダード公式戦でした。その概要をレポートします（氏名は敬称略）。

オープンコースの1Rと2Rは上位者がほぼ順当に勝ち進む静かな立ち上がりでした。しかし3RになるとTran Thanh Tu 1/2-1/2 Charron Thomas、南條遼介1/2-1/2汐口達也と、話題となる結果がぼつぼつ出始めます。

前半の4Rが終わった時点で青嶋未来、小島慎也、Averbukh Alexの3選手が4戦全勝。彼らを半星差の3.5pで山田弘平、Liu Yeh Yang、汐口、Tu、南條、森谷翔の六選手が追いかけます。おなじみの強豪選手たちに交じり、台湾から参加したCMのLiu（チェンナイオリンピック2022の台湾代表）とU18の森谷が先頭集団に入って興味津々の展開となりました。

3日目の第5RではAlex 1/2-1/2青嶋、Tu 1/2-1/2小島、上位4人が互いに譲らぬ一方、南條と森谷とLiu



森谷翔さん

が勝ち名乗りを上げ、6選手が4.5pで首位に並ぶ大混戦となりました。そして午後の第6Rにて、青嶋と南條が勝つ一方、小島が「ひどい勘違いでゲームを崩して」[註1]しまつてLiuが勝利。かくして南條、青嶋、Liuの3選手が5.5pでしのぎを削って最終第7Rを迎えるこ

ととなりました。そこから先は優勝者自戦記（17頁）をどうぞご覧ください。

[註1] Blog: <https://shinyakojima-blog.blogspot.com/2024/07/japan-chess-classic-2024-day3.html>

オープン入賞者

1位	FM 青嶋 未来	6.5/7P
2位	IM 南條 遼介	6.5
3位	CM Tran Thanh Tu	6.0
4位	IM 小島 慎也	5.5
5位	CM Liu Yeh Yang	5.5
6位	森谷 翔	5.5
7位	山元 聡一朗	5.5
8位	FM Lam Daniel King Wai	5.0
9位	古谷 昌洋	5.0
10位	藤井 智彬	5.0
女子 1位	WCM 小島 なつみ	4.0
U18 1位	森谷 翔	5.5

ジャパンチェスクラシック 2024



チャレンジャーコース入賞者

チャレンジャーコースでは初日の3試合を3連勝で単独首位に立ったN Murugappanが、続く5試合をそのまま駆け抜け、1位でゴールドテープを切りました。

「ここは日本ですか？」

大会後、オープンコース参加者の一人がブログで書いたこの一言は、他の多くの選手たちにも共通する感想だったことでしょう。オープンコース参加者122名の内、Foreign Chess Nationality Ticketで参加した選手が48名もいたからです。控室では普通に外国語が飛び交っていました。かつて、日本のチェス大会に出場する海外出身の選手は日本在住の人ばかりでした。それが今や、高い航空運賃と宿泊費を払ってわざわざ海外から参加する選手がこれだけいる時代になったのです。定跡を

踏まえて指するのが一般的な日本人とは対照的に、クセのある指し手（失礼！）を繰り出す外国選手と対戦することで、日本のチェスがさらにレベルアップすることでしょう。明るい未来を思い描くことができた大会でした。参加された皆様、お疲れさまでした！



チャレンジャーコース入賞者

1位	N Murugappan	7.0/8P
2位	大沼 航太	6.0
3位	新居 冬馬	5.5
4位	石川 凌	5.0
5位	布施 直輝	5.0
6位	石川 永一朗	4.5
7位	富澤 望	4.5
8位	小林 大煌	4.5
9位	AFM Handika Rangga	4.5
10位	浅倉 友照	4.5

Tournament Report

大会レポート



Tournament Report
優勝者自戦記

ジャパンチェスクラシック2024 オープン優勝者自戦記



オープン優勝者
青嶋未来

今大会は、心身の不調が続いており辛い状態の中、試合に臨むことになってしまいました。ただ、勝負の世界で生きてきた経験として、苦しいときこそ真価が問われると考えているので、なんとか最善を尽くそうと思っていました。最終日までの6試合では、3試合も敗勢に陥っており、からくも優勝に望みを繫いだという感じでした。

7Rを迎えた時点で私とLiuさん、南條さんが5.5ポイントで並んでいました。ただ南條さんにタイブレークで負けていたため、勝っても優勝できるとは限らないという状況でした。とはいえ周りを気にしても仕方なく、自分の試合に集中しようと思いました。対戦相手のLiuさんは過去にマスターを下した試合もあり、今回も好成績を残しているので大変な試合になる予感がしていました。

Liu, Yeh Yang

Aoshima, Mirai

Japan Chess Classic 2024 (7)

1.e4 c5 2.Nf3 d6 3.c3 Nf6 4.Qc2
Qc7 5.h3 g6 6.d4 cxd4 7.Nxd4
Nc6 8.Be3 d5

似た形でd6-d5が急所になるのを知っていたのでここでも突きました。8...Bg7 9.c4を気にしていました。

9.Nxc6 bxc6 10.Nd2 Bg7 11.Bd3
0-0 12.0-0 Nh5 13.Rfe1 Rb8
14.Nb3



展開で遅れておらず白のセンターも厚くないので不満ないはずですが、構想が全く分かりませんでした。

14...Nf4 15.Bf1 e5

f4のナイトは拠点というより負担になるので、単に14...e5としてまたNf6と戻るのが良かったです。

16.Rad1 Rd8

c8のビショップが展開しづらく、センターポーンが狙われそうで不安要素が多く、結構悲観しており時間も大量に使ってしまいました。しかし実際は白から特別有効な攻めはなく、ほぼ互角です。

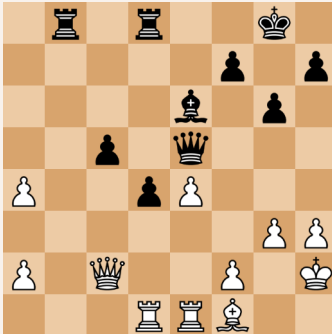
17.Kh2 Ne6 18.g3 a5

f4のナイトを追い払う狙いだと思いますが、e6にいる方が安定するので、これなら黒十分に戦えると思いました。

19.Nc5 d4 20.Nxe6 Bxe6
21.cxd4 exd4 22.Bf4 Be5
23.Bxe5 Qxe5

時間を多く使っていたので、この辺りはほぼノータイムで着手しました。d4の拠点、b2のターゲット、白のf2の弱さを考えれば黒にアドバンテージがあると思いました。

24.b3 a4 25.bxa4 c5

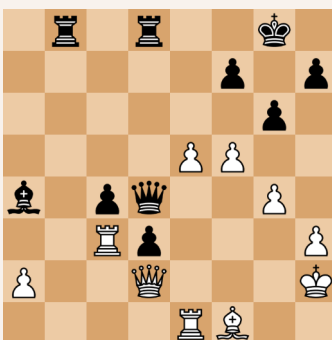


bファイルをオープンにしつつ、c5+d4の2コネクテッドパスポーンを作るのが急所です。ポーンを捨てることに抵抗はありません。

26.f4 Qh5 27.Qg2 c4 28.g4 Qc5
29.f5 Bd7 30.e5 Bxa4

白は反撃のチャンスを作るべく、キングサイドのポーンを伸ばしますが、Bd7～Bxa4で捨てたポーンを取りつつルークに当て、気持ち良い手順となりました。黒キングはまだ安全なのではっきり優勢になりました。

31.Rc1 d3 32.Qd2 Qd4 33.Rc3



黒からの...Rb2を防ぎましたが、いかにも苦しい受けです。どうするかは悩ましいですが、白の考慮中に決めていました。

33...Rb2

普通は33...Rb5としておくくらいですが、f6～Qh6のメイトスレットが嫌味です。決め手があるときは自分の読みを信じて決めに行く、これが大事なことだと思っています。

34.Qxb2 Qf4+ 35.Kh1 d2

ルークを捨てますがQf4+のチェックで、Bc6の活用もあるので白キングは逃げ場が難しいです。そして35...d2でポーンが止まらず、ルークを取り返せる形となります。ちなみに先に34...d2とすると...Qf4+にRg3が生じるので、この辺りはしっかり比較する必要があります。

36.Qb6

36.Rb1は36...Bc6+ 37.Bg2 d1=Qがあります。ルークに当ててパーペチュアルチェックを狙います。

36...dxe1=Q 37.Qxd8+ Be8

パーペチュアルチェックを回避する移動合の妙手！！と思って指しましたが、よく見ると37...Kg7 38.Qf6+ Kh6でQh4+とできない(e1のクイーンが利いてる)ので逃れています。もちろん本譜でもクイーン2枚が強力で勝ちです。

〔編集部補足：移動合「いどうあい」。将棋用語。相手に王手をされたとき、盤上の駒を王手のラインに移動させて守る手のこと。タダで取られるが、取られる場所に相手の駒を引き寄せることで相手の攻めを防ぐ手段を指す。〕

38.Qxe8+ Kg7 39.f6+ Kh6
40.Qf8+ Kg5 41.h4+ Qxh4+
0-1

試合内容は結果的にさほど問題なかったのですが、途中は悲観していたので勝ててほっとしました。しかしながらまたも南條さんとのタイブレーク勝負となります。この時点で確定していないので、他の試合の結果を見守ることになりました。全日本に続き負けるのはさすがに嫌なので、勝たせてくれと願ってました(笑)

そして運良く優勝することができました！

今大会は解説した試合もそうですが、海外からの参加者が多く、全体の参加者も120人越えでかなり盛況でした。日本チェス界の盛り上がりが少しずつ増しているのを感じ、嬉しかったです。

9月にはオリンピアードがございます。今回の反省を生かして、もっと内容の良い試合をして結果を残せるよう、今後も頑張りたいと思います！



初めての相手と、気軽に指せる楽しみ

Chess Center UENO

各 部
入 場 料 500円

営 業
時 間

木
曜 日

1部
17:00
▼
22:00

土
曜 日

1部
10:00
▼
14:00

日
曜 日

1部 2部
10:00 14:00
▼
14:00 18:00

チケットご購入
(Peatix)



※最終入場は各営業日の終了30分前です。

チェスセンター上野

東京都台東区北上野2-11-3シルバーフラット101

Access :

東京メトロ日比谷線 入谷駅 徒歩8分
東京メトロ銀座線 稲荷町駅 徒歩9分
JR/東京メトロ 上野駅 徒歩11分

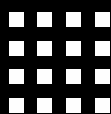
公式HP : [リンク](#)

お問い合わせ : info.chesscenterueno@gmail.com



1人でもOK

スタッフがお相手します！



各部最大16人

みんなで一緒に！



保護者の付き添いOK

未成年1人につき1人まで無料

所在地
(Google Map)



※価格、営業時間は掲載時点のものです。



21st Bangkok Chess Club Open 2024遠征記

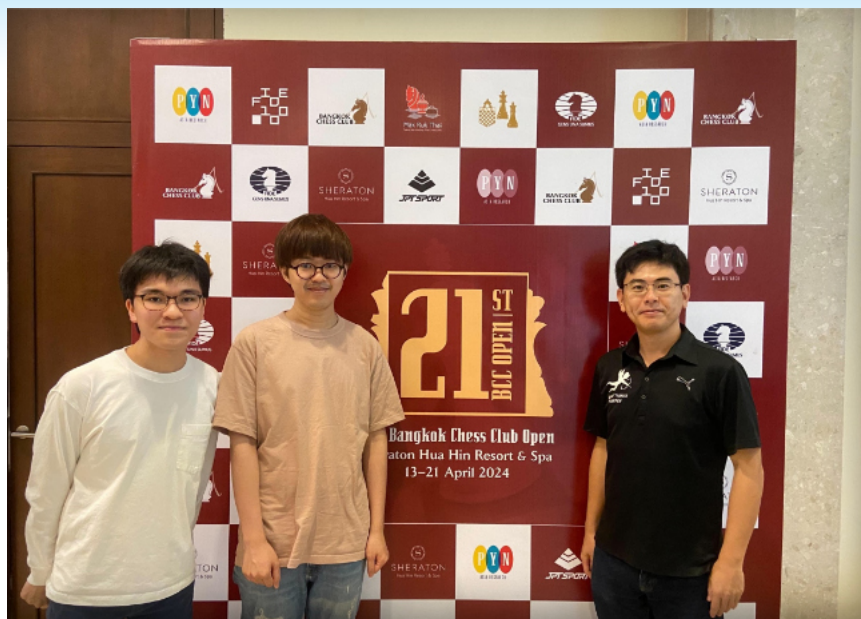
長瀧航太

สวัสดีครับ! (こんにちは!)

4/13~21にタイのホアヒンで開催されたBangkok Chess Club Openに参加しました。

Bangkok Chess Club Openは例年4月に開催されており、開催地はタイ国内を転々としています。今回の大会はバンコクからバスで3時間ほどの南部のリゾート地ホアヒンで開催されました。大会は誰でも参加できるOpenクラスとFIDEレート2000以下限定のChallengerクラスに分かれており、OpenにはGM11人を含む227人、Challengerには87人の参加者がいました。これは東南アジア最大規模のトーナメントの1つと言えます。日本籍のプレーヤーも長瀧、大塚さん、馬場さん、Nodonさん、Rolstonさんの5人がいました。

タイは直行便を使うと日本から6時間ほどで行くことができ、ヨーロッパに比べ渡航費も安く抑えられます。また日本よりも物価が安く、食事もおいしいので過ごしやすいです。唯一、難点なのは外が非常に暑く室内が非常に寒い点です。去年のタイでのトーナメントでは、寒くて集中できないゲームもあったので、今回は日本の冬よりも厚着をして大会に臨みました。



パネルの前に（左＝筆者、中央＝大塚翔生さん、右＝馬場雅裕さん）

大会前日に大塚さんとバンコクの空港で待ち合わせ、その日の夜にホアヒンにつきましたが、早速ソクラーンが始まっており、大変な思いをしました。ソクラーンとはタイの旧正月に行われる水をかけあうお祭りで、道を歩いているだけで外国人にも容赦なく水をかけてきます。しかもこの日はソクラーン期間の前日だったので翌日以降どうなることやらと思いましたが、幸いにもホアヒンで活発にソクラーンをやっていたのはこの日が最後でよかったです。Bangkok Chess Club Openは毎年ソクラーン休暇に合わせて開催されるので参加される方は気をつけてください(笑)。

大会は1日1ラウンドで殆どの日が14:30から始まります。朝ゆっくり起きてからプレパレーションできるスケジュールはとても快適でした。会場は5つ星ホテルのSheratonでプレーイングエリアも非常に豪華でした。各プレーヤーに水が入ってあるグラスが提供され、質の高い軽食も販売されており、ハイクオリティなトーナメントであることを改めて実感しました。また会場にはタイのチェスであるマークルックが置いてあり、スタッフの方にルールを教えてもらい大塚さんとプレーしました。ラウンド開始前にマークルックのミニトーナメントが開催されている日もあり、本当は参加したかったのですが、チェスに悪影響を及ぼしそうなので諦めました(笑)。





大会会場

大会は2RからFMに勝つことができ、良いスタートを切れます。4Rは優勢を意識し始めたところで相手に難解なポジションを押し付けられ、間違えてしまいそのまま負けて悲しい思いをしました。しかし対局後に馬場さんに海に見える豪華なレストランに連れていただき、幸せな気分で1日を終えられました。気持ちを切り替えて挑んだ5RはWGMに劣勢なゲームを粘って勝つことができ、調子に拍車がかかります。そして6Rは今大会のベストゲームでした。相手はバングラデシュのFM Rahman, Md. Taiburです。

FM Rahman, Md. Taibur
Nagataki, Kota
21st Bangkok Chess Club Open

1.d4 Nf6 2.c4 g6 3.Nc3 d5
4.cxd5 Nxd5 5.e4 Nxc3 6.bxc3
Bg7 7.Bc4 c5 8.Ne2 Nc6 9.Be3
O-O 10.O-O Bg4 11.f3 Na5
12.Bd3 cxd4 13.cxd4 Be6



13... Be6まで

Grünfeldのメインラインの1つです。12.Bxf7+ Rxf7 13.fxg4もポピュラーなラインです。黒はポーンダウンですが、いずれg4のポーンが落ちるかコンペンセーショ

ンを得ることができるので、問題
ないです。

14.Qa4 a6 15.Rfd1 b5 16.Qb4
Nc4 17.Bf2 a5



17... a5まで

14.Qa4が緩手で黒にクイーン
サイドのポーンを伸ばすチャンス
を与えます。チャンスを得た黒は
クイーンサイドのポーンをどんど
ん伸ばします。17...a5は一見b5
のポーンがただで落ちているよう
に見えますが、18.Qxb5 Rb8
19.Qg5 (19.Qa6 Nb2 20.Rd2 Rb6
21.Qa7 (21.Qxa5?? Nxd3 22.Rxd3
Rb1+!) Nxd3 22.Rxd3 Bc4 23.Rd2
Bxe2 24.Rxe2 Bxd4) Nb2 20.Rd2
Nxd3 21.Rxd3 Bc4 22.Rd2 Bxe2
23.Rxe2 Bxd4

(変化図。次ページ) となり、黒
が主導権を握りながらポーンを取
り返せます。白はクイーンを逃げ
る良い位置がありません。





変化図 23... Bxd4まで

18.Qb1 Rc8 19.a3 Qd6 20.e5
Qd7 21.Nf4 Bf5



21... Bf5まで

19.a3は黒がb5-b4としてクイーンサイドのポーンを安定化させるのを防ぐ手です。しかし、黒が白マスビショップとクイーンを交換したのち、a5-a4, Rf8-Re8, e7-e6, Bg7-Bf8とすると白はa3ポーンを守るすべがありません。黒は19...Qd6でa3のポーンを狙うことでe4-e5を誘い、f5でのビショップとクイーンの交換を可能にします。

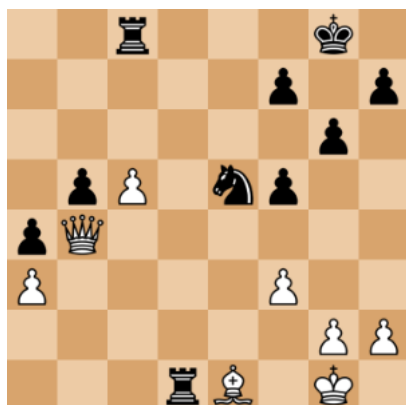
22.Be4 Rfd8 23.Qb3 a4 24.Qb4
e6 25.Bxf5 exf5 26.Nd3



26. Nd3まで

白は26.Nd3からNc5を目指し、黒のBg7-Bf8に対抗しようとしてますが、ここは黒勝ちの手があります。

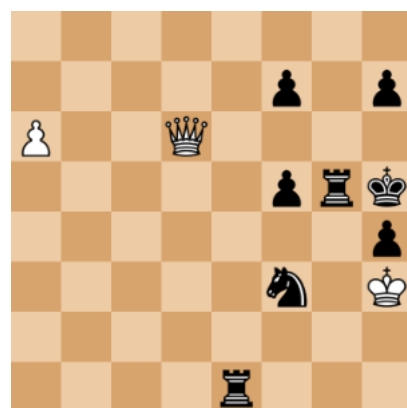
26...Bf8 27.Nc5 Bxc5 28.dxc5
Qxd1+ 29.Rxd1 Rxd1+ 30.Be1
Nxe5



30... Nxe5まで

次のNd3が受からず、黒はマテリアルで圧倒的に有利です。

31.Qxb5 Nd3 32.h4 Rxe1+
33.Kh2 Nxc5 34.h5 gxh5 35.Qb4
Re6 36.Qf4 Nd3 37.Qxa4 Ne1
38.Qh4 Rc2 39.Qg3+ Kf8
40.Qb8+ Re8 41.Qd6+ Kg8 42.a4
Rxc2+ 43.Kh3 Rg6 44.Qd7 Ree6
45.Qc8+ Kg7 46.Qc3+ Kh6
47.Qd2+ Rg5 48.Qf4 h4 49.a5
Nxf3 50.a6 Re1 51.Qd6+ Kh5
0-1



終局図

少し怪しくなりましたが、最後はチェックメイトが受からず白リザイン。Grünfeldの強みであるクイーンサイド・マジョリティとc4マスに置かれた強いナイトを活かして非常に満足のいくゲームでした。





食事中的一コマ

8Rは残念なことに同部屋の大塚さんと当たってしまいます。ペアリングが発表されてからはとても気まずい雰囲気でした。結果は負けましたが、大塚さんはこのラウンドを勝ったおかげで翌日FMを倒すことができたので、大塚さんにとっては大きい勝ちだったと思います(笑)。

9Rはインドの1700+の子供というとても怖い属性の人に当たりましたが、問題なく勝ち、5.0p/9で大会を終えられました。

今回の大会は格上相手に3回も勝つことができ、大会期間中の生活や大会後の観光も満足 of いくもので、とても充実した遠征でした。スケジュールさえあれば来年以降もBangkok Chess Club Openに参加したいと思っているので、ご興味のある方は声をかけていただけると嬉しいです！

[Chess-Results Server Chess-results.com](https://chess-results.com)
[-21st Bangkok Chess Club Open 2024](#)





FIDE World Junior Chess Championship 2024

Ami Matsumura

2024年6月1日から14日にインドで開催されたWorld Junior Chess Championshipに参加が決まったのは、出発の約1ヶ月前だった。すぐに始めたビザの申請には予想以上の時間がかかり、九段下にあるインド大使館へも4度足を運んだ。大きなビザのステッカーがページいっぱいには貼られたパスポートがやっと手元に戻った頃には、出発も目前に迫っていた。その時点でも宿泊先や空港からの送迎の確認はできておらず、あらゆることがあやふやなままではあったが、とにかく行ってみるしかないという腹を括った。

6月1日午前11時に羽田を発った全日空837便は、時間通りデリーに着陸した。1時間半しかない乗り換えでは、あわや乗り遅れの危機に

瀕したが、アーメダバード空港ではすんなりと出迎えのスタッフに合流することができた。アーメダバードはインドの西部に位置し、マハトマ・ガンディーの活動拠点だったことや、インドで初めて都市として世界遺産に登録されたことで知られる、活気のある産業都市である。空港から外に出た頃には、すでに21時を回っていた。夜というのに40度を下らない熱風に、馴染みのない異国を感じながら、用意してもらったミニバンに揺られてホテルへ向かった。

試合会場のあるRadissonホテルは、空港から更に約40分ほど離れたGift Cityという開拓エリアに孤峰として聳え立っていた。天井の高い豪華なロビーの端には大会チェックイン用のデスクが置かれ、サリーを纏ったインド人スタッフが、到着選手の額に赤い塗料のティカを塗って出迎えてくれる。ちょうど同じ頃にGMビシュワナタン

・アナンドが到着したらしく、歓迎の人垣で華やいでいた。インドで彼がどれだけ尊敬されているかを肌で感じる場面だった。

試合は翌日の午後3時に始まる。

6月2日、午前10時には大会の説明があるというので、会場の視察も兼ねて参加してみる。すでにレギュレーションには目を通していたし、大体どの大会も基本的には同じだろうとタカを括っていたのだが、ショート丈のパンツとサンダルが禁止だということは初耳だった。「適切なアウトフィット」の解釈が間違っていたことに気づいたのだが、長いパンツといえ、会場が寒かった場合に備えて一本だけ持ってきていたスウェットパンツしかない。会長に事情を訴えたが、イギリス系の教育を厳しく受けたであろうインド紳士の彼は、厳格に一步も譲ろうとはしてくれなかった。16歳は十分大人であり、チェスは紳士のスポーツなのだ。これまではより良いコン



会場入りしたGMアナンド





ディションで頭脳を使うことを最優先して、楽な格好を選んできた息子だったが、チェスを格式のあるスポーツとして再認識し、その一環を担う者としての自覚に目覚めさせられる出来事だった。あまり時間がなかったが、タクシーを飛ばしてなんとか間に合って長ズボンを手に入れた。きっかり午後2時には、開会式が始まる。世界大会という選ばれた壇上に登る誇りに輝く選手たちは、いよいよ幕が開く緊張感に包まれていた。

ここ数年でますます厳しくなっている傾向があるようだが、ここでも会場に入る際のセキュリティチェックは物々しい。選手たちは一切の電子機器はもちろんのこと、バッグ、財布やペンなども持って入ることはできない。会場にはペンと水が用意され、持参する他のものはテーブルではなく床に見えるように置く。保護者やコーチは速やかに退場させられ、会場

内の写真を撮ることはおろか、中で何が起きているかを知る術はない。試合の運びだけが、すべてのボードに設置されたdigital transmissionを通してOnlineの盤面で見れるようになっているのである。

息子のスタートランキングは半分より幾分下なので、第1試合では上位選手にチャレンジする側から始まる。Under20の大会ではすでにGMになっている選手も多く、タイトル保持者がズラリと並ぶ。初戦の相手はドイツのIM選手だ。強い相手と戦うのを好む息子にとってむしろ幸先がいいのではとうそぶいたが、引き分けたと報告を受けた時には誇らしい気持ちになった。

ところで、私は保護者として10年以上息子のチェスに付き添っているが、プレーヤーとして学ぼうと思ったことはない。それは元々

勝負事を好まないのもあるが、息子が8歳の頃から長く指導してもらっていたコーチと出会った頃に約束したことが、いまだに心に刻まれているからである。彼は言った。コーチがチェスを教え、母親は勝敗に関わらずマネージャーに徹してほしい、と。試合の内容に口は出さないと誓ったものの、勝たなくてはいけない試合で負けた時など思わず「なぜ負けたの?」と問い詰めたくなってしまう。しかしそれは結局のところ、私が感情を吐き出したいだけであり、本人にとっては害にこそなれ、一つも有益なことには繋がらない。

第2戦以降の3試合を連続で負けた時にもまた、感情的なセリフが喉元まで出かかったのだった。平常なら決してしないようなタクティックミスが敗因だったとコーチからは聞いたが、何とも後味が悪い。強豪揃いの中であって、せめて自らのミスで負けを招いてしまうようなことがないといいなと思っていた矢先だったので尚更だ。親の想い、子知らず。まだ大会は前半で先は長く、この段階で集中力を失うわけにはいかない。身体を動かせばリフレッシュするかと、ホテル内でできると聞いた卓球に誘ってみる。ところがいざ地下1階のジムを訪ねてみると、私の靴が運動にふさわしくないという理由で入場を断られてしまう。散歩するにも外は灼熱な上、見渡す限り歩けそうなところは全くない。そうして改めて見ると、選手たちは実質、部屋と会場とカフェ



全て配信ボードの会場





テリアの三角形に閉じ込められていることに気付くのがだった。

ホテルは申し分のない5つ星だが、キオスクなし、自動販売機なし、近くにスーパーもなければ、食事処もない。日本からトランク一つ分持って来たインスタント食品が、日を追うごとにありがたく感じられた。一ヶ所しかないカフェテリアのピュッフェは確かに美味しいし、バリエーションも揃えてくれているのだが、1日3食同じ場所で、2週間ほぼ変わり映えのないメニューなのにはさすがに辟易した。しかもどれを取ってもどことなくカレー風だし、ベジタリアン主流のこの地方で肉といえば、外国選手用に用意された骨付きの食べにくいチキンしかない。好き嫌いのない息子でさえ、1週間過ぎた頃には階下に降りて食事をする気力を失い、部屋でカップ焼きそばとインスタント味噌汁で腹を満たすようになっていた。いよいよ彼の行動範囲は、部屋と会場2ヶ所の往復に限られてしまったのだった。

3日目の夜だったか、食欲もなく目もどことなく虚なので、額に手を当ててみると、芯のある熱さがあった。おそらく39℃はあるだろう。夜だったので、持参した風邪薬を吞んで早目に休む。翌朝になると熱が下がったようだったので試合には出たが、夜になるとまた高熱がぶり返し、薬を吞む。お腹も壊したので整腸剤も一緒に吞む。そんな繰り返しをだましま

し3回したところで、ようやく中休みになった。なぜもっと早くに不調を訴えなかったかと問いただすと、負けた言い訳に思われなくなかったのだと言う。子の想い、親知らず。親である私の方こそ、日々気づきと学びの連続なのである。

休みの日には、滞在中に再選されたモディ首相も訪れるという街一番のレストランの予約を取っていた。まだ微熱があったので油断はできなかったが、ホテルで寝ているより気晴らしにはなるだろうし、せっかくだからそこだけは行ってみようということになった。前半から引きずる想いや気運をここで一新させる意図もある。初めての外出だ。タクシーに頼んで、レストランまでの道中を少しだけ遠回りをしてもらって、車中からのミニ観光ツアーもおまけに付けた。

その翌日から始まった後半戦は、どれも格下とではあったが、立て続けに3試合の白星を手にすることができた。そして迎えた第10戦では、やっと格上との対戦が巡ってきたことに奮い立ったのだったが、またしても連続のタクティクスミスで身を崩すジンクスに陥ってしまう。勝ちもすぐそこに見えていたのに、最終的には相手に勝ちを譲ってしまうという、もったいなくもやるせないパターンだ。まだゲームが終わらないうちに、コーチから「こういう負け方をするのは選手にとってとても辛



現地での食事（ターリー料理）

いから、精神面のサポートを頼む」というメッセージが入った。なんとかこの苦い思いを一掃して、翌日の最終戦に平常心で挑めるよう備えたい。

5時間半の試合でへとへとになった息子が夜9時過ぎに戻って来た。それまでタクティクスは自分の強みだと自負していたのに、今回の大会では、それが理由で負けたゲームが複数あった。やつれた顔はしていたものの、コーチが心配したほど自尊心が壊れてしまったわけではなさそうだったので、胸を撫で下ろす。むしろ「タクティクスを強化しなければ」とコーチに指摘されたことの方が心に刺さったようだった。

心配された最終戦だったが、蓋を開けてみると、安定した試合運びで勝ち星を上げることができた。苦難の前半戦を乗り越えて、後半は結果だけで言うと5試合中4勝し、無事に全11試合をやり遂げ





参加国の国旗

た。付き添いの私には長く疲労困憊した大会だったが、息子はやっと調子を取り戻して面白くなって来たのだそうで、もっと続けたいと目を輝かす。心底チェスが好きなのだ。誰の血を受け継いだものか、異星人を見るような気持ちになる。

今回の大会について息子が声を大にして訴えたいことが一つある。それは検討室がなかったこと。世界大会の意義の一つは「交流」であり、その交流の場こそ検討室であり、それが無いのは大きな損失ではないだろうか。試合が

終わって、会場の外で立ち話をすると追い払われ、ロビーで携帯の小さな盤面でざっと分析する程度しかできなかったのだそうだ。日本では今まで参加したどの大会にも、十分な広さの検討室が用意されていたことを思い、改めて恵まれていたのだと感じたそうだ。

最終戦の後、WJCCは閉会した。体力的にも精神的にも荒波に揉まれながら、その都度なんとか立て直し、最後まで集中力を持続させることができた。息子にとってまた一つ、自信に繋がったに違いないと確信する。

翌日6月14日は、長逗留ですっかり顔見知りになったホテルのスタッフに見送られ、日本へ向けて帰路についた。





Asian Youth Chess Championships 2024 遠藤美紀

第26回アジアユースチェス選手権2024は、6月9日から21日までカザフスタンのアルマトイで開催されました。この大会はカザフスタンチェス連盟がアジアチェス連盟（ACF）と国際チェス連盟（FIDE）の協力を得て開催したものです。FIDEゾーン3.1から3.8の国々が参加できる大会であり、今年は34カ国から642人が集まり、各国の代表として11日間にわたり熱戦を繰り広げました。

日本からは遠藤秀馬（U14）、西田詠人（U10）、糸数アントニオ（U10）の3名が参加しました。遠藤は去年に引き続き2度目の大会参加、西田と糸数にとっては、初めての海外大会およびスタンダード形式のFIDE戦でした。

大会はBALUAN SHOLAQ ARENA

という巨大な複合スポーツ施設で行われました。参加者の数が多いため、オフィシャルホテルは4つに分かれ、私たちは競技場から約3.8キロ離れたホテルに滞在し、毎日専用シャトルバスで競技場とホテルを往復しました。食事は3食ビュッフェ形式で、選手がいつでも食事を取れるよう食事時間が設定されていました。また、青いTシャツを着た大会ボランティアの若者たちが空港、ホテル、会場内外に大勢配置され、参加者及び同行者が大会期間中をスムーズに過ごせるよう手助けをしてくれました。

競技場内では、U12からU18の各トップボードが正面舞台上に配置され、それ以外は競技場にびっしりと並べられた各カテゴリーごとの長テーブルで日々試合が進んで行きました。競技場外には中継ブースが設置され、トップボードの試合がYouTubeで中継されました。また、場外の液晶モニターに

試合の様子が映し出され、多くの保護者が試合を見守っていました。

試合形式はスイス式で行われ、初日と2日目にラピッドゲーム（15分+10秒）が7試合、3日目から10日目まではスタンダードゲーム（90分+30秒）が9試合、最終日にブリッツ（3分+2秒）が9試合行われました。また、初日には開会式、試合後には閉会式があり、各部門のゴールド、シルバー、ブロンズ及び国別チームメダルが表彰されました。

アンチチーティング対策も厳重で、選手は金属探知機を通過し、警備員によるチェックを受けてから競技場に入ることができました。スマートフォンは専用カウンターに預け、試合後に返却されました。

選手のためのリフレッシュメントエリアも競技場内に設置され、飲み物や食べ物が提供されまし



写真提供：カザフスタンチェス連盟





遠藤秀馬さん

(写真提供：カザフスタンチェス連盟)

た。また、大会専用Tシャツや帽子、水筒が配られ、選手たちは給水機から水を水筒に補給して試合に臨みました。

保護者やコーチは金属探知機をクリアすれば観客席に座ることが許されましたが、最終ラウンドでは立ち入りが禁止されました。会場内の温度管理が不十分であったため、今大会は場内が大変暑く、今後は様々な気温に対応できる服装を準備する必要があると感じました。

また、大会期間中には運動会、サッカー大会、文化紹介イベント、観光などのさまざまなサイドイベントが開かれ、多くの参加者がそれを楽しんでいました。息子の秀馬はGM Victor Bologanのマスタークラスに参加し、「ボビー・フィッシャーはロシア語を勉強し、ロシア語の本を読んでチェスが強くなった。君もロシア語を勉強すればチェスが強くなるよ」

というメッセージと共に、サイン入りの著書をプレゼントしてもらいました。

試合に関しては、西田はコーチが帯同し、遠藤と糸数はそれぞれのコーチよりオンラインレッスンを受けながら試合に取り組みました。結果はそれぞれに異なりますが、次への改善点を見つけることができれば良いと私自身は保護者として考えています。

大会全体の結果は、昨年金メダルのなかったカザフスタンが、オ



西田詠人さん

(写真提供：カザフスタンチェス連盟)

ープンではU12を除きすべて金メダルでした。ホームアドバンテージや大会期間中に行われたIM Nogerbek KazybekのWorld Junior 優勝会見による士気高揚を差し引いたとしても、この躍進には目を見張るものがありました。一方女子は、G8のインド、G12のベトナムを除き金メダルは全てFIDE（ロシア）でした。

また、チームメダルの結果は1位がカザフスタン、2位がインド、3位がベトナムでした。昨年、ロシアがアジアにゾーンを移行して以来、メダルの総数だけで言うと昨年は1位、今年は2位なのですが、登録名がFIDEのため、チームメダルの表彰台には迎え入れられませんでした。

閉会式では、FIDEのパートナーで、今大会スポンサーでもあるFreedom Holding CorpのCEOであり、カザフスタン・チェス連盟代表でもあるTimur Turlov氏が、昨今のジュニア選手の活躍に言及しつつ、「アジアが世界のチェス・リーダーを育てる」という力強いメッセージを残しました。表彰式の最後にはIM Kazybekが登場し、Turlov氏より奨励金と副賞の電気自動車が授与され、閉会式は盛況のうちに終了しました。

私は大会期間中に、カザフスタンチェス連盟と政府が共同で実施



糸数アントニオさん

(写真提供：カザフスタンチェス連盟)





大会の全競技を終え、達成感あふれる笑顔の3人

する「Chess in Education」という初等教育にチェスを取り入れるプロジェクトのセミナーに参加し、このセミナーを通じて、カザフスタンが今後、国を挙げて選手を育成する意思を持っていることがよくわかりました。また、今大会の素晴らしい結果と潤沢な資金による洗練された大会運営を目の当たりにすることで、近い未来のチェ

ス勢力図の主要国には必ずカザフスタンがいるのだらうと強く感じました。

最後になりますが、ジュニアの世界大会やアジア及び東アジア大会は、開催時期が日本の学期中であることが多く、さらに開催期間も長いため、気軽に参加できるものではありません。しかし、同世代の各国代表選手たちと試合を

し、より良い成績を目指すことは日本のジュニアプレーヤーにとって大変良いモチベーションになります。また、大会を通じてさまざまな国や年齢のプレーヤーと交流することも、子供達にとって素晴らしい経験となります。このレポートを読まれた保護者の方でお子様が海外大会に興味を持たれていたら、ぜひ参加をお勧めします。



Tournament Report

大会レポート



FIDE100チェストーナメント

原島もも

1924年7月20日、パリで創立されたFIDE。

そのFIDEより、創立100周年の記念日に世界中で大会を開催し、ゲーム数でギネス記録に挑戦しようというミッションが送られてきました。そこで急遽企画したのが「FIDE100チェストーナメント」です。普段の大会と一味違ったイベント感を出したいと、表参道のコンクリート打ちっぱなしのおしゃれスペースで開催することにしました。

スイス式の4R、15分+10秒/手の国内ラピッド公式戦、75名が熱戦を繰り広げたこの大会。チェス界の100年に一度のイベントになるべく多くの選手に駆けつけて欲しいと、初心者も参加しやすいようにOpen、U1600、U1000の3つのカテゴリーに分けてペアリングを行いました。そのお陰でチェス界の将来を担う子ども達がたくさん参加し、活躍してくれました。

そして日本を代表するプレーヤーと共にこの記念日をお祝いしたいと、オリンピアドの代表選手

を招待しました。席の並びもいつもと変えOpenセクションを真ん中に置き、憧れの選手のプレーが間近で見学しやすいようにレイアウト。試合を終えた選手が、マスター達が対戦する丸テーブルに集まって豪華なマッチアップを見守る姿が見られました。

このイベントを通じて、世界のチェスフレンズと繋がっていること。そして自分もチェスの長い歴史を繋ぐひとりなのだと感じてもらえると嬉しく思います。

FIDE、100年目のお誕生日おめでとう！この瞬間に関わることができて幸せです。



入賞者

Open

- | | | |
|----|----------|--------|
| 1位 | FM 青嶋 未来 | 4.0/4P |
| 2位 | 松永 冬馬 | 3.5 |
| 3位 | IM 小島 慎也 | 3.0 |

U1600

- | | | |
|----|--------------|--------|
| 1位 | 竹内 惇 | 4.0/4P |
| 2位 | 安野 直樹 | 4.0 |
| 3位 | Berends Gijs | 3.0 |

U1000

- | | | |
|----|-------|--------|
| 1位 | 松元 謙斗 | 4.0/4P |
| 2位 | 佐藤 祐弥 | 4.0 |
| 3位 | 大久保 翠 | 3.0 |

半分眠りながらママの抱っこで表彰される
U1000の3位 大久保 翠くん

チェス大会 【文】上杉賀子 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

息子（上杉 晋作・2007 年高校 1 年生で全日本史上最年少チャンピオン）が 2009 年チェス国籍日本の最年少 FIDE マスターとなり 2010 年全米高校選手権で優勝するまで（さらにアメリカの Senior Master の資格となる USCF レート 2400 の壁を超えるまで）参戦した、アメリカの全ての公式戦、約 180 大会の様子を順番に載せてみようと思います。渡米から 1 年半、紆余曲折を経て現地生活に馴染んできた頃、小学校のチェスクラブの案内を見かけて入部。これが始まりでした。その一年後、いよいよトーナメントプレーヤーとして出陣です。

NO.77 全米学年別選手権

2006 年 12 月 8 日～10 日

晋作（15 歳）の結果：6.0P/7Game

レーティング 2163 → 2166

大会詳細：[USCF サイトより](#)

全米学年別選手権、9 年生の部で優勝、念願の全米タイトルを取ることができました。GM ヒカルママからも早速お祝いメールが届いてびっくりしました。USCF 上での winner リストです。

[winner リスト](#)

選手権は 12 月 8-10 日、フロリダのオーランドでおこなわれ全米各地から 1540 人の選手達が集まりました。各学年に分かれて（9 年生は 74 名）の 3 日間、7 試合、まさに激闘で棋力、気力、体力の勝負でした。チェスがスポーツと認められている所以ですね。晋作はトップシードとして出場し慣れない Board 1 にすわったのでそのプレッシャーはいかばかりだったかと思いますが、頑張りました。特に直前の National Chess Congress が最悪の結果だったのでどうなるかと思いました。その時調子が出なかった子達もその鬱憤をはらすかのように軒並み好成績をあげていました。



トップシードテーブルの晋作

一大会の様子を逐一主人に報告していたメールを参考にー

初日：

出かける当日の朝は 3 時半に起きなきゃと思うと眠れなくてほとんど一睡もせず空港に行きました。全て順調でディズニーマジックバスでホテルまでできました。10 時半ごろホテルに到着、これが大正解であると 30 分ほど遅れていたら身動きできないところでした。信じられないチェックインの

列でした。部屋は 3 時前によくあいたのでそれまで荷物は預けて、とりあえず昼食をとりました。

Board1 の写真をとっているのはその「相手」となった子たちの親と私だけという、ちょっと緊張していた「Board1 の新人」の晋作ですが、やはりここまでになるだけの人脈はあります。11 年のトップシード、オールアメリカンの Daniel Ludwig（現在は IM）とも話し、Board1 の心得？など

チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

も教えてもらっていたようです。12年のトップシード付近のメンバーとも知り合いです。

ところが初戦 1200 そこそこに思いもよらずすごく時間がかかって、おなじく時間がかかりすぎの各学年トップ軍団（9年 Jayson Lian, 7年の Andrew Ng, Alec Getz, そして一番苦戦していたのが USCF2300 台の 8 年生、マークタイラー）の親御さんたちと「何しているんだろうね」と話しながら待ちました。でもこれもまたなかなか楽しかったです。12年のバージニアからの友人は 14 手、4 分しか使わず勝つし、9年のトップ軍団、Riccardi や Abby などは楽勝のようなのに、、、

マークタイラーは 1100 相手に本当にやばくて完璧負けていたそうで、もちろん最後は勝ちましたが、おかあさんも「何てことでしょう」という感じで一緒に待っていました。晋作のことは 12 年のトップシード Barnett も、11 年のトップシード Ludwig も晋作が勝っていると言ってくれたので、安心はしていましたが、そして実際は圧勝なのに相手がなかなか降参せず、圧勝の形でもドローをオファーしてきたりしたそうで、少しでも Board1 にすわっていたかっただけでしょうか。でも 3 時間近くかかって、荷物を部屋にもってきて、夕飯を食べたらすぐ第 2 戦という感じです。

部屋はコンベンションセンターに近い館ではありますがそれでも

遠くて、万歩計でも持ってくればかなり自己満足できるのにと思いました。晋作はさすがに陸上部なので元気です。外はちょっと寒いんです。

いつも Open 戦で大事にさせていただく FM Figler さんが HunterTeam のコーチにきていて Hunter Team のチームルームに行く道を迷っておられて私がお連れして、とても喜んで下さいました。それから知人のコーチとも夕食時に会って晋作のレートとトップシードを喜んでくださって「全米チャンプになってくれ。そして全米チャンプと知り合いだといえるから」と堅い握手をしてくれました。

2 戦目は問題ないとは思いますが、、、マークタイラーでも苦戦するので scholastic はわかりません。大会記念 T シャツとチェスボードは確保しました。日本人の親子組ともすでに会って話しています。（一人は 6 年生の部で 2 位タイとなりました。彼は 10 年生のとき、2010 年全日本ジュニアチャンプとなりました。もう一人はこの時はまだ 5 年生でしたが、彼は 9 年生で全米学年チャンプとなるまで成長しました。いずれもこれからの日本を代表するジュニアたちです。いろんな大会で一緒に、励まし合ってきました。）初日をなんとかしのいで明日を迎えたいものです。私は初日で足が棒です。

2 日目：

3 戦目 1 秒残りで引き分け。相手は Youth Action（持ち時間 30 分の全米の高校生までの大会）2 位の子です。ちょっと意識したかな？勝っていたと思うけど考えすぎて時間が無くなってずっと 5 秒 delay で指していたようです。やはり持ち時間 1 時間半ずつの 3 時間では短すぎる。。。早くも Board1 から転落。そして 4 戦目の相手はこれまた不覚をとって引き分けた Abby（現在 WFM）の 3 戦目の相手、レート 1832 だけどなかなか手ごわそうです。とにかく優勝するにはあとは全部勝つしかなくなりました。

昼食は食べませんでした。最後時計を見て終わったので時間切れで負けかと思いました。ナカムラヒカル君の養父 Sunil さんがヒカル君の兄、アスカ君（毎年全米学年別チャンプだった人）を紹介するから晋作にチームルームに来てといってくれました。Abby は「3 ポイントは今のところ 6 人ね、まだ大丈夫だわ」と言っていました。しっかりしています。晋作は自分なりに気持ちをきりかえようとしているけれど、プレッシャーはかなりかかっています。部屋で晋作の社会の宿題をみると、第一次大戦のアメリカの社会的、政治的、経済的变化と戦争続行のためのそれらの価値を詳しく説明せよというもののようですが、する時間あるかなあ？

4 戦目、晋作の嫌いなオープニ

チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

ングで最初はやばかったようですが、どんどん攻めて、相手は怖くて守りにはいつて結局晋作が勝ちました。そして5戦目は4戦全勝の Zachary Weiner と Board2 でやりましたが、私が迎えに行く前に勝っていました。Board1 は同じく4戦全勝の Yang Stanley と Ho Grant。上位陣が星のつぶしあい。まず全勝優勝はないのでは？

最終日：

Board1 に返り咲きです。私は、朝、まずビジネスセンターにいて帰りのボーディングパスをプリントしていきました。サウスウェスト航空、乗り込む順は「A」と一晩早いグループなのでよかったです。

6戦目の相手、Stanley 君は明るい感じの子です。昨日、最終日に一番ボードに座れることになって「やったー」といっていました。7年の時の Grade Champ です、というか晋作以外の上位陣は毎年、交替で Grade Champ になっているようなメンバーです。晋作はかなり緊張していて始まる前にトイレに行きました。珍しくオープニングも気にしていて、危ないやり方ではなくて Solid なやり方にしようとかいっていました。Ludwig からそういうアドバイスを受けているようです。Barnett も晋作のことをとても気にしてくれていました。

8年生はマークハイマンが一番



優勝トロフィーをもらう晋作

ボードでマークタイラーと、7年生は Andrew Ng と Alec Getz、6年生は Heung、一番ボードがそろってきました。Heimann のおばあちゃんはフロリダに住んでいて駆けつけて来ました。私もこういう大舞台をじいちゃん、ばあちゃんに見せてあげたいと思いました。

6戦目、息子は引分けてしまいました。これで優勝はなくなりましたが、最終戦、トップを走る Stanley に Riccardi が2番シード、元オールアメリカンの維持を見せて勝ち6ポイントとし、晋作も学年チャン

プ経験者の Jayson Lian 君に勝って6ポイント、タイブレイクで晋作が一位のトロフィーをもらうことになりました。

6年生、7年生、8年生、10年生、11年生のチャンピオン達、6年生の2位タイ、7年の3位マークタイラーほか上位陣、12年生のトップシードで惜しくも2位となった高校生などなど他の大人の Open トーナメントで親子共々非常に親しいメンバーで喜びをわかちあいました。全米各地の友人たちとの久しぶりの再会を楽しみ、表彰式前後に友人達と談笑する姿をみて嬉しくなりました。

チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

しかし、、、その喜びもつかのま、、、

早速帰宅後は学校のほうの makeup で頭を悩まし、早くも「全米に行くんじゃないかった」と後悔しながらふらふらで出かけて行っていました。先生方は全米チャンプをとって「おめでとう」とは言ってくれますが宿題やテストが免除になるわけではありません。ほとんどトップの子達はホームスクールか私立で学校生活に融通が利くようにしています。晋作は地域の公立校なので極力欠席を少なくするため 8 日朝 3 時過ぎに起き、10 日夜の表彰式終了後 11 日朝 4 時起きで帰ってきて、午後の授業に直行しました。帰宅翌日の夜は Band Concert で息も絶え絶えに（??）トランペットをふき、その翌晩は陸上大会で 1600m リレー、800m、1600 m と 3 種目走りました。帰宅しても連夜のスケジュールです。チェス、スポーツ、音楽、仕事と忙しく、特に公立校でのチェス遠征と学校生活との両立に限界を感じております

が、まだ若いのでチェス一本に絞る（ほどの力でもないの）でより色んな場所で色んなバックグラウンドの人達と触れ合うという（こちらでは全く普通の）ハイスクール生活を送ることも人間形成には大事だと思うので、なんとか乗り切ってもらいたいと思います。毎日の部活の練習に加え、木曜放課後は学校の MTS academy (Math Technology and Science)、金曜夜は地域バスケットチームの練習（1 月から週末に試合）ハイスクールを代表してチェスリーグにも定期的に出場し、合間にチェスコーチ、チェストーナメントダイレクターの仕事もこなしています。日本語補習校も欠席がちですがその分課題は頑張っています。

私の方はもうこのタイトルで学業成績はどうでもよくて C でも D でも E でも気にならないのですが（たしか Sweet16 をとったときもそうだったような、）本人はどうも気になるようでまだ劣等生にはなりたくないようです。私は付き添いだけです。胃に穴が

あきそうな 3 日間を終えてほっとして、帰ってきたらどっと疲れが出てきました。スケジュールの調整、学校側、先生方との欠席の調整、旅行の手配、健康管理も含め精神的にも肉体的にもかなりなものでしばらくはその疲れをひきずっていました。芸能人のマネージャーのようす???。そして今回は優勝で幕を閉じたのでこれを学校の先生方に報告です。

全米チェス連盟の Press Elizabeth Vicary さんは以前同じトーナメントに参加し、晋作に棋譜をうつさせてほしいと頼みにきて以来知り合いで、この大会にもきていて、早速試合後インタビューされました。そして最終戦の棋譜、インタビュー記事が USCF サイトに載り、やっと認められてきたかな、オールアメリカンに追いついてきたかなと思います。ハイスクールが発行する学内誌にも載せてくれ、週末に通っているワシントン補習校の学校便りにも載せていただきました。地方紙のインタビューが年明けの予定です。



インタビューを受ける晋作

編集部

木下奏子 神田大吾
山内美加 真鍋浩
鈴木秀聡 桑田晋
森谷真理子（順不同）

発行

一般社団法人 日本チェス連盟

本誌に掲載された写真、イラスト、記事、棋譜の解説等について、無断転載および無断配布を禁止します。著作権はそれぞれのクリエイターにあります。
ご意見・ご感想などは japanchess.editor@gmail.com までお寄せください。